

キャノングローバル戦略研究所（CIGS）
ポール・ゴールドスタインセミナー
『地政学的シフト：北東アジアの課題と機会』

【質疑応答要旨】

日時： 2018年6月28日

場所： キャノングローバル戦略研究所 会議室

質問者 1: 金正恩委員長を朝鮮半島の非核化へと動かしたのは何だと思うか？この局面まで彼を動かした本当の動機は何だと思うか？

質問者 2: ディープ・ステート（国家内国家）と、CIA やミャンマーのロヒンギャ問題との関係があるとすれば、それらについてどう思うか？

質問者 3: 今後のイスラエルの役割についてどう思うか？

ポール・ゴールドスタイン氏、パシフィック・テック・ブリッジ (PTB) 社長兼 CEO: 最初の質問である金委員長の動機は、彼がスイスで教育を受けたこと、近代的な制度を持ちたい、自らの遺産を築きたいという願望が挙げられる。金委員長は祖父（金日成）の様にナショナリストである。彼には北朝鮮を近代国家にするというビジョンがあるので、祖父が望んだ以上のことをしようとしている。平壤は近代都市だが、それはエリート層にとっての話である。金委員長は外国直接投資を望んでおり、中国には依存したくない。西側や中国との関係においてバランスを取ろうとしているという点で祖父に似ている。

2つ目の質問についてだが、米国にディープ・ステートは存在しない。米国には際立った官僚機構がある。ディープ・ステートは、ロシアのように保安機関が国家を運営している国に存在する。CIA や連邦捜査局 (FBI) も政治に関与するが、方法が違う。恩恵を得るために操作するようなことはないだろう。

民主党は、アフリカ系アメリカ人の票の大半をほぼ確実に獲得できる政党になった。一方で、共和党は特定の利益のための政党になった。トランプ大統領はこのようなシステム全体を粉砕した。そこから道徳的で倫理的な指導層が生まれることを期待したい。

3つ目の質問について、イスラエル問題は米国政治において最も敏感な問題である。過去に多くのことを試みてきたが、いずれも成功しなかった。そこで、大使館の移転という別のアプローチを試みている。これは政治的な動きである。ユダヤ系の大富豪 3 人が共和党に 1 億ドルを寄付し、これがテルアビブからエルサレムへ大使館を移転した理由である。イスラエルの情報機関は長年に渡って米国の世論を操作してきた。連邦議会はイスラエル国家のための議会となった。現在、従来とは異なる中東政策が必要であり、それがプーチンが鍵となる理由である。

質問者 4: トランプ大統領の通商政策について簡潔に教えて欲しい。また、サウジアラビアでは何が起きているのか？

質問者 5: 英国とアジアについてはどのような意見をお持ちか？ 日英の同盟は再び結ばれると思うか？

ゴールドスタイン：トランプ政権内には通商政策に関して 3 つの派閥がある。ライトハイザー（通商代表）、ロス（商務長官）、ナヴァロ（国家通商会議委員長）は、それぞれ程度の差はあるものの、ドイツおよび日本との二国間協定を望んでいる。日本は関税に関して難しい決断を迫られるだろう。更に、メキシコでは左派ポピュリストの大統領が誕生することになり、その結果メキシコは恐らく北米自由貿易協定（NAFTA）から脱退するだろう。

中国はトランプ大統領よりはるかに洗練された通商政策を行っている。ドイツの立場には共感しない。ドイツは日本より政府補助金がかかなり多い。BMW の工場が米国に建設されつつあるが、日本が行なったこととは全く異なる。結局、トランプ大統領はインフラと国際通商の問題に着手しなければならない。トランプ大統領はロシアゲートと共和党の政略に翻弄され、インフラ問題に具体的にどのように対処すれば良いか理解していない。日本は米国のインフラ再建支援で非常に大きな役割を担うと思う。

サウジアラビアの近代化は、現在の国際テロのサイクルから抜け出すことに繋がるだろう。一部の伝統的な部族的宗教組織は、文化的に 7 世紀の状態に留まっている。サウジ 2025 計画の大部分は、マッキンゼー・アンド・カンパニーが立案した。イスラエルは初めてサウジアラビア問題に協力している。サウジアラビアは、アラブ首長国連邦（UAE）とバーレーンが複雑な問題を創り出しているという声明を出している。イランを交渉のテーブルに呼び戻すことも考えられる。制裁を迂回するため、欧州は非課税事業者を作りたいと考えた。サウジアラビア問題は地政学的に軸となる問題であり、肯定的なものとなれば多くの変化を引き起こすだろう。

リーマンショックによる金融危機の後、英国政府はシティのシンクタンクを中国に売却しようとした。ブレグジット（Brexit）が起きた後、英国は世界における役割を再考している。

海洋同盟は、平和と繁栄を確保している地政学的同盟とは異なる。米国にはかつて海軍省と陸軍省があった。1947 年国家安全保障法により、陸軍と海軍が統合されて国防総省が発足した。

質問者 6: 今後数か月の間にイラン問題がどのように展開するかについて、考えを聞きたい。

ゴールドスタイン：イランは政情不安を抱えている。現体制は経済改革を実施できていない。イスラム革命防衛隊（Islamic Revolutionary Guard Corps : IRGC）がイラン経済の 80%を管理している。オバマ大統領のアプローチは、イランとの関係を構築し、イランの伝統的な経済基盤を開放させるというものだった。非常にゆっくりと機能し始めたが、イスラム教マルクス主義者のような一部の人のためには、十分な速さではなかった。彼らは体制変更を強く求めており、イランの体制を不安定化させるために米情報機関の全面的な支援を得ようとしている。安定したイランは、危険なイランになり得る。従って、CIA と国防総省は反対している。イランは政権内に不安があり、イスラエルも分裂している。イエメン、シリア、イラクにおけるイランの行動を押し戻せば、イランをシリアから追い出せる可能性がある。近い将来、関係国すべてによる会議が開催されることが望まれる。

以上